

遠賀川流域活動報告

◆嘉麻市◆ サケは神の使い 鮭神社で五穀豊穡を祈願
12月13日(火)

[詳しい記事を見る](#)

遠賀川をのぼってきたサケを神の使者として、鮭神社に祀る「献鮭祭(けんけいさい)」が嘉麻市大隈で行われました。

その年にサケが遡上すると豊作になると言われているのですが、今年は残念ながらサケの姿はありませんでした。

そこで、今年は4年ぶりにサケを模したダイコンを奉納し、豊作を願いました。しっかりと祈願したので来年も豊作になる事でしょう。



神の使いとしてサケを祀る「鮭神社」「遠賀川源流サケの会」の会員の方々

サケに模したダイコンを奉納

新しくサケの孵化場が完成！ 広さが2倍に！！

今まで使用していたサケの孵化場は非常に狭く、且つ老朽化も目立った事から、昨年の11月27日、馬見山キャンプ場近くに新たに新設されました。

完成した施設は旧施設の約2倍の広さで、2トンの水が入る水槽も倍増(4基)され、使用する水も遠賀川源流から直接引き込めるなど、稚魚にとって快適な環境となって生まれ変わりました。

施設が広くなった事で作業の効率が向上しただけではなく、今まで難しかった施設内での環境学習も可能となり、子供たちはサケの孵化状況を間近で観察する事ができるようになりました。今まで以上に活用される事が期待されます。



サケ孵化場落成式の様子



新しく建てられたサケの孵化場



広さは59㎡と以前の2倍の広さに

遠賀川のサケは新潟産！？ サケの孵化作業始まる

現在、残念ながら遠賀川ではサケの産卵は確認されておらず、やむなく遠く900km離れた新潟県から卵を送ってもらっています。今年も献鮭祭終了後、孵化場に約4万個の卵が届けられました。

梱包されていた卵は直ぐに孵化箱に移され、約10日ほどで孵化すると、自力で水槽へ移ります。

1月26日現在では、ほぼ全ての稚魚が水槽に移動し、体長も約3cm程に成長し元気に泳ぎまわっています。

5cmほどに成長する2月末頃には、遠賀川流域のたくさんの場所で放流会が開催されます。

放流の様子は次号以降にお伝えしたいと思いますので、皆さん楽しみにしてください。



4つの水槽で沢山の稚魚を育てます



孵化槽に発眼卵を丁寧に移します



残念ながら死んでいる卵は取り除かなければなりません



遠賀川流域だより

第23号
平成24年1月

「平成石炭門松」
田川郡大任町の道の駅「おおとう桜街道」に設置された門松で、大きさは世界一との事。直径7m 高さ20.5m 24段(平成の年号と同じ数)



詳しい情報はWebで!! 「遠賀川河川事務所」のHP版の「流域だより」にはより詳細な情報と、たくさんの写真も掲載されています。※検索画面において、[遠賀川流域だより](#) [ダウンロード](#) で検索してください。

遠賀川流域活動報告

◆飯塚市◆

「川ひらた」の進水式 新たな地域の目玉に 9月25日(日)

[詳しい記事を見る](#)

筑豊地域で物流の主役だった川船「川ひらた」の復元に取り組む地元の市民グループ「川船製作研究会」(梅沢邦夫会長)が現存する最後の1隻(県有形民俗文化財:折尾高校で保存)をもとに4年の歳月をかけ、実物大の川ひらたを復元させました。川ひらたと遠賀川の関係は古く、江戸時代は米や雑貨の運送に、江戸時代終わり頃から明治、大正時代にかけては石炭運送の主役として、最盛期には8,000隻もの川ひらたが遠賀川を行き来しました。

船の構造も独特で、水に沈む部分を薄く、船べりを広く取った作りで、特に浅瀬を通過するときには船体が”しなる”ように工夫されており、狭く浅い川でも物資を運ぶことができる作りとなっています。

復元された川ひらたは、市民ら100人以上が見守るなか、飯塚市川島の遠賀川河川敷で進水式が行われました。

同時に試乗会も開かれ、半世紀ぶりに蘇った舟の乗り心地に参加者は満足しているようでした。

ちなみに、この舟は遊覧船としてまちづくりに活用される計画だそうです、その勇姿はこれからも遠賀川で見ることができそうです。



進水式の様子 最初の船出す



半世紀ぶりの立派な雄姿を見せています



式典での和太鼓演奏

◆大任町◆

水エコしよう！彦山川清流ルネッサンスキャンペーン 9月8日(木)

[詳しい記事を見る](#)

「水エコ～川を汚さないために私たちができること」がキーワードの「清流ルネッサンス」も3回目となる今年、田川郡大任町の彦山川水辺公園で、大任小学校・今任小学校の3年生約50人の児童と地域住民や関係機関の方々、総勢80人が参加しての「彦山川清流ルネッサンスキャンペーン」が開催されました。

まず、屋内で彦山川の環境について学習し、その後、彦山川水辺公園に移動。そこで川の水質や透視度を計測したり、川の中に入って水中に棲む生き物を調査しました。

見た目にはきれいな川の水を調べた結果「少しきつい水」と判定結果に、子ども達はみな驚いていました。

今回の実験や調査結果から、自分たちの生活と川に関わり、そして水の汚れの浄化にどれだけの水が必要か、生活排水をきれいにすることで、河川浄化に繋がることなど、水エコの大切さを感じられていたようです。



水生生物の調査の仕方について説明を受けています



どんな水生生物がいるか、早速川の中に入って探し始めました



木や物陰に隠れている生物がいるみたいだよ よく探してみよう



取った水生生物を見本と見比べて名前を探します



魚達の名前を良く知っている児童もいて大人の方がびっくりしてました



1mの透視度計に川の水を入れて、上から覗きこみ底の印がはっきり見える高さを記録します



CODパックテストで化学的に川の水質を計ります



彦山川について学習 毎日の生活の中に関係しているよ



みんなで調査した結果をまとめると、上中下流とも見た目に差がなかったが、CODパックでは、上流の方がきれいな事が分かり、発表と活動を通して、改めて水エコの大切さを知る事が出来ました



◆芦屋町◆ 2011 芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン 9月11日(日) [詳しい記事を見る](#)

川に捨てられたゴミは、川の流れに乗って海まで流れていきます。大雨の時には、普段流れない大きなゴミや木に引っかかっていたゴミ、草や木の枝なども一緒に流れ、遠賀川の河口や海岸線を埋めつくします。

河口のゴミは出来る限り回収しますが、海までゴミが流れると海水浴場への影響や、漁業にはゴミが網やスクリーンに絡みつくと、甚大な被害をもたらしてしまいます。

この現実を伝え、ごみ減量に取り組んでいるNPOの呼びかけにより、芦屋海岸や若松海岸のゴミ清掃が毎年実施されています。10年目の今年は、約400人も参加者が集まり4箇所（岩屋海岸・夏井ヶ浜海岸・洞山周辺・なみかけ大橋）に分かれて清掃活動を実施しました。

遠賀川上流に住む方々の参加も年々増えているそうで、参加者からは「川が汚れているのは上流に住む我々の責任もあり参加している。実際に集まったゴミの量を見るとその量に圧倒されます」と、ゴミ問題の深刻さを感じていました。



住民・企業・自治体から多くの参加者



漂流している多くのゴミ達



ゴミ袋がすぐ一杯に



参加されたたくさんの方々、本当にお疲れ様でした



◆飯塚市◆ いいづか防災フェアで防災意識を高めよう 9月4日(日) [詳しい記事を見る](#)

体験を通して防災について考える「第3回いいづか防災フェア」が飯塚市防災センターと遠賀川河川敷で開催されました。開催地である飯塚市は近年、大きな洪水(出水被害)が多発している地域であり、これまでも防災意識は高かったのですが、今だ記憶に新しい東日本大震災の直後ということもあり、当日は多くの参加者が熱心に参加していました。

会場では、水難救助の実演や、けむりが充満した部屋からの脱出、AED(自動体外式除細動器)を使っの救命体験、ポンプ車放水など、自らが体験できる盛り沢山の内容に参加者は大満足。防災意識を高めることができたようです。

飯塚市防災センターでは、開館日ならいつでも”無料”で地震体験が出来る施設があります。最大震度7まで体験できますので、お気軽に足をお運びください。



会場の「飯塚市防災センター」と「遠賀川河川敷」屋外には災害時の救援活動車両や体験ブースなど



「地震体験ブース」では体験した事のない揺れにびっくり



「心肺蘇生・AED体験ブース」素早い処置で助けられる命



災害時の緊急炊き出し訓練で「ボタ山カレー」づくり



災害などで活躍する制服を着用した小さな隊員達 将来の職業は消防士や自衛官になることかな



ポンプ車放水体験 遠くまで放水したよ



消火器訓練 上手く消火する事が出来たかな



「けむり体験ブース」 煙を吸わないよう姿勢を低く

◆宮若市◆ 気軽に古代体験 化石観察会の開催 8月7日(日) [詳しい記事を見る](#)

化石を見つけるって何か大変そうですが、宮若市の千石峡では気軽に化石が見つかることができます。

この千石峡、約1億3千万年前(中生代白亜紀前期)の地層がむきだしで、岩を注意深く調べれば化石が見つかります。ちなみに昔は湖だったそうで、巻貝や魚類の化石、それになんと”ワニの化石”まで見つかったそうで、大昔の筑豊地方にワニが歩いていたなんて驚きです。更に1990年には福岡県内で初めて恐竜の化石まで見つかっており、今後も世紀の大発見があるかもしれない注目のスポットです。

今回この地において、NPO遠賀川流域住民の会が「地層の観察と、貝類の化石を含んだ転石の観察会」を企画、親子連れなど約60人が参加し、河川敷の岩や石を熱心に調べました。

化石研究家の先生による講座では、転石の中の”巻貝”や”二枚貝”の見つけ方や、筑豊地方でしか見られない”メタセコイヤが石炭となった化石”、”木の樹脂からできたコハクの化石”など、珍しい化石の写真や実物を見る事ができました。

参加者たちは河原の石を拾っては化石が含まれていないか目をこらし、巻貝などの化石が見つかる大人も子供も同じ様に目を輝かせていました。宝探しの様な貴重な体験ができるこの地に皆さんも足を運んでみてはいかがでしょうか？



大昔、千石峡は湖だったため多くの岩には貝類の化石化した跡などが残っていました。



ふたりとも化石に興味津々



皆さん化石探しに夢中

遠賀川水系における不法係留船対策について

遠賀川水系では、バブル期にプレジャーボートの所有が増加した結果、遠賀川河口部周辺・西川において、多数の船舶（ピーク時の平成13年には843隻）が係留されるようになり、周辺地域への治水上の問題や環境問題（ゴミ・騒音）が深刻となっています。

この為、遠賀川河川事務所では、H20年より本格的な不法係留船対策を実施しています。

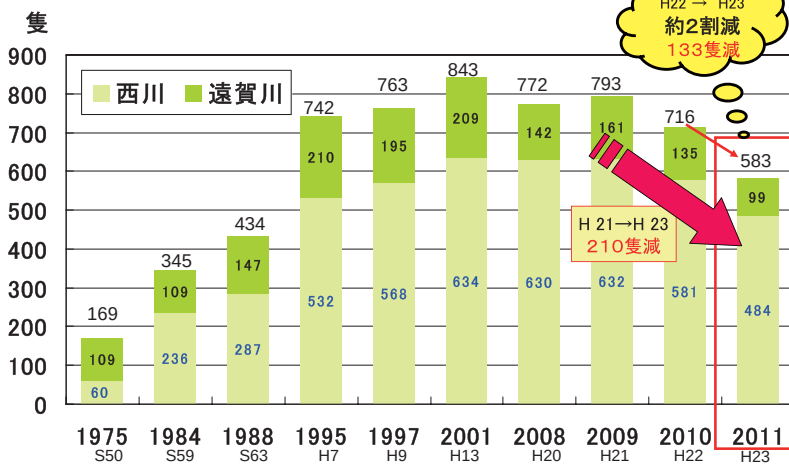
遠賀川河口域の対策状況

平成23年2月に、『遠賀川河口域利用対策協議会』の意見を踏まえ、国土交通省九州地方整備局と福岡県の連名による『遠賀川河口域における不法係留船対策に係る計画書』の策定をいたしました。

この計画に基づき、九州初となる“重点的撤去区域（遠賀川砂浜と西川高水敷）”を設定し、周辺環境の維持と治水の安全を確保するために、船舶の係留規制（強制撤去）の徹底を行うなど、秩序ある河川利用に向けての対策を進めているところです。

その結果、遠賀川河口域(国管理区間)で、昨年度に比べ**133隻（約2割）**の船舶が減少したことが確認されました。今後も、重点的撤去区域の段階的な拡大を順次はかり、不法係留船対策を強化していきます。

遠賀川水系不法係留船の推移



不法係留船の状況



遠賀川河口域利用対策協議会



◎不法係留船対策について詳しい情報は、遠賀川河川事務所ホームページ内の「遠賀川河口域不法係留船対策」をご覧ください。

不法係留船の実態や対策、重点的撤去区域及び係留保管施設等の案内を掲載しています。

「遠賀川河口域不法係留船対策」

<http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/illegal/index.html>

遠賀川河口域利用対策協議会とは

河川局の通達『計画的な不法係留船対策の促進について』に基づき設置され協議会です。メンバーは、学識経験者・地元自治体・警察・河川管理者(国・県)で構成されています。この協議会からの意見を受け、河川管理者が不法係留船対策に係る計画を策定します。

また、協議会は、地域住民の意見（遠賀川下流部利用者会議）を聴きつつ実施していくこととなっています。

流域内のイベント等の予定

- ・ 2月18日(土) 第13回 香月・黒川ほたる教室
- ・ 2月26日(日) 第17回 遠賀川サケの放流
- ・ 3月3日(土) 第8回 「いけいけチャレンジ! 遠賀川」発表会
- ・ 3月10日(土)、11日(日) 第8回 ふくおか水もり自慢!

【場 所】

北九州市八幡西区 木屋瀬
遠賀町
直方市 遠賀川水辺館(遠賀川地域防災施設)
飯塚市近畿大学

遠賀川流域だより

発行 国土交通省遠賀川河川事務所

住所 直方市溝堀1丁目1-1

電話 (0949) 22-1830

FAX (0949) 22-2859

HPアドレス <http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/>

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。



協力 NPO法人遠賀川流域住民の会

電話 0948-22-3535

<http://www.ongagawa.jp/>